

2011年5月27日

各位

オリックス不動産株式会社

## **「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」 の提言発表について**

オリックス不動産株式会社(本社:東京都港区、社長:山谷 佳之)は、昨年9月29日に設立しました「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」の提言内容を昨年12月27日の発表に引き続き『専門家委員会および部会からの提言とその対応状況』、『第3回から第7回の「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」』『(仮称)京都水族館で出会えるいきものたち』として取りまとめましたのでお知らせします。

「(仮称)京都水族館」は、地域の方々が環境について学習し、様々なアクティビティへの参加を通じて親しみを持ってご利用いただける施設を目指します。さらに、動物福祉(エンリッチメント)を図りつつ、古都京都に生息する希少ないきもの情報を発信し、環境問題にも真剣に向き合って取り組んでいきます。

※2010年12月27日に『「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」の提言発表について』として『専門家委員会および部会からの提言とその対応状況(経過報告)』、『第1回および第2回の「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」』を当社ホームページに掲載しました。

以上

<添付発表資料>

- ① 専門家委員会および部会からの提言とその対応状況
- ② 第3回「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」
- ③ 第4回「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」
- ④ 第5回「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」
- ⑤ 第6回「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」
- ⑥ 第7回「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する専門家委員会」
- ⑦ (仮称)京都水族館で出会えるいきものたち

### **【本件に関するお問い合わせ先】**

オリックス不動産株式会社 社長室 田海・永井 TEL : 03-3435-3411

## 添付発表資料①

### 専門家委員会および部会からの提言とその対応状況

専門家委員会及び海獣部会、淡水魚部会及び海水魚部会は準備会も含め延べ16回（2011年5月12日時点）の会議を行ってきた。

<過去16回の会議実施日>

① 第1回専門家委員会	(2010年9月29日)	※1
② 第1回魚類(淡水)部会 準備会	(2010年10月6日)	※1
③ 第1回海獣部会	(2010年10月7日)	※1
④ 第2回専門家委員会	(2010年10月13日)	※1
⑤ 第2回海獣部会	(2010年10月22日)	※1
⑥ 第1回魚類(海水)部会	(2010年10月27日)	※1
⑦ 第2回魚類(淡水)部会	(2010年11月2日)	※1
⑧ 第2回魚類(海水)部会	(2010年11月17日)	※1
⑨ 第3回専門家委員会	(2010年11月11日)	※2
⑩ 第4回専門家委員会	(2010年11月25日)	※2
⑪ 第3回海獣部会	(2010年11月25日)	※2
⑫ 第3回魚類(淡水)部会	(2010年11月25日)	※2
⑬ 第5回専門家委員会	(2010年12月20日)	※2
⑭ 第4回海獣部会	(2010年12月20日)	※2
⑮ 第6回専門家委員会	(2011年1月19日)	※2
⑯ 第7回専門家委員会	(2011年2月15日)	※2

※1：2010年12月27日に弊社ホームページ上で「専門家委員会および部会からの提言とその対応状況」を公開済み

※2：今回公表となる専門家委員会および部会

上記「※2」の記載がある計8回の専門家委員会と部会を対象に、委員から出された提言とそれに対する対応状況を以下に示す。

<魚類(淡水)部会>

(第3回) 2010年11月25日(木)

「淡水魚等の水族について」

<提言① 展示方法を工夫すること>

- ・スペース的な制約も考慮し、混在展示を明示したうえで、例えば、鴨川と由良川など生息域の異なる生き物を一緒に展示するのも面白い。アマゴとヤマメやサクラマスとサツキマスなど。

(2010年11月25日 淡水魚部会)

(対応状況)

- ・情報を明示したうえで混在展示を検討します。パネルでの情報発信だけではなく、可能な限りスタッフがその場での説明を実施できるようにします。

<提言② 源流から海にいたる水と命のつながりを明確に提示すること>

- ・淡水魚の展示では、水といのちの連環についての情報発信をしたほうがよい。(2010年11月25日 淡水魚部会)

- ・例えば、海と川を往来する生き物の1つであるモクズガニなどの展示を通して海と川のつながりに触れるのがよい。(2010年11月25日 淡水魚部会)

(対応状況)

- ・源流域や上中流域の淡水魚水槽を充実させます。汽水域の生き物も展示します。

<提言③ 展示の枠を越えた館外活動も行うこと>

- ・単なる館内での展示や、その展示を通じた情報発信だけではなく、(各種手続きのうえで) 実際の川などに生息する生き物の繁殖をアシストし、また自然にかえすといった活動をしたほうがよい。(2010年11月25日 淡水魚部会)
- ・希少種の1つであるアユモドキなどは、館内での展示を保全とするのではなく生息地における野生の個体群の保全も一緒に考えるべきである。(2010年11月25日 淡水魚部会)  
(対応状況)
- ・館内での展示や繁殖だけではなく、体験学習などを通して外に広げていく活動を実施します。

<海獣(一括)部会>

(第3回) 2010年11月25日(木)

(第4回) 2010年12月20日(月)

「海獣全体について」

<提言① より快適な生活空間と環境を確保すること>

- ・委員会設立当初より提言を続けているように、イルカプールの形状や大きさはとにかく広く深くするように。(2010年11月25日 海獣(一括)部会より)
- ・動物福祉の立場から、イルカにとって本当に過ごし易い環境を究明するように。(2010年11月25日 海獣(一括)部会より)
- ・イルカの飼育にあたっては環境エンリッチメントやその方針について発信するように。(2010年11月25日 海獣(一括)部会より)  
(対応状況)
- ・プールの形状は各プールを水路でつなげ、できるだけ1つの形状になるようにしています。工事の進捗を調整しながら水路の幅を2mから3mに広げ、よりイルカの回遊性に配慮した形状に変更します。
- ・プールの形状は変更しますが、当初の水流を維持しながらイルカにとって良好な水質条件を究明できるようにします。
- ・水処理施設をプールから離れた位置に配置することで、雑音や振動による影響が出ないようにします。
- ・各プールは緊急時には遮断ができるようにします。水路幅を広げたうえで、各プールを隔離できるように、水密性を確保できる水門を設置します。

<提言② イルカをより深く理解するために>

- ・健康管理や繁殖、研究のための水中観察窓を設置したほうがよい。(2010年12月20日 海獣(一括)部会より)  
(対応状況)
- ・プールの形状は変更しますが、水中観察窓は減らさずに設置します。
- ・監視カメラや水中マイク、水中スピーカー等の機器を設置し、引続きイルカにとって快適な環境を実現するための研究機能を充実させます。

<提言③ 海獣を飼育することについての基本的な考え方を提示すること>

- ・イルカを飼育するうえで、イルカを健康に保ちながら繁殖に繋げるための方針や施策を積極的に示すべきである。(2010年12月20日 海獣(一括)部会より)
- ・飼育するイルカだけではなく、種の保全につながるように生息地での調査活動などに水族館としてかかわっていくべきである。(2010年12月20日 海獣(一括)部会より)

- ・水族館相当施設が目的として掲げるものは主として展示、教育、域外保全、研究の4つだが、これに拘らず新しい事があれば挑戦すべきである。(2010年12月20日 海獣(一括)部会より)
  - ・先の4つの中で何を探求していくのか、またその成果をどのような形で具体化させるのかを意識することが大切である。(2010年12月20日 海獣(一括)部会より)
- (対応状況)
- ・アナログな手法になるかもしれませんが、人間の看護システムや介護システムを利用した健康管理や血統管理などができないかを検討します。
  - ・保全のための調査活動なども含めて、具体的なアクションプランを検討します。ハード面から移行し、ソフト面の施策を継続的に検討、実施していきます。

以 上

<今回公表の対象となる8回の会議日時と参加者> ※敬称略

- ① 第3回専門家委員会 (2010年11月11日(木) 15:00-18:00)
- (出席者) 委員 : 伊谷、亀崎、幸島、竹門、中井、保賀、森阪、森本、依田  
 事務局 : 森川、三坂、升本、下村、後藤、番匠  
 オブザーバー : 宇高、中島、伴、的山
- ② 第4回専門家委員会 (2010年11月25日(木) 12:30-13:00)
- (出席者) 委員 : 伊谷、幸島、竹門、中井、保賀、益田、森本、依田  
 事務局 : 森川、三坂、升本、下村、岡崎、後藤、番匠  
 オブザーバー : 二木、中島
- ③ 第5回専門家委員会 (2010年12月20日(月) 14:00-16:30)
- (出席者) 委員 : 伊谷、亀崎、幸島、竹門、中井、保賀、益田、森阪  
 事務局 : 三坂、升本、下村、岡崎、三島、番匠  
 オブザーバー : 伴、的山、若松
- ④ 第3回海獣部会 (2010年11月25日(木) 10:00-12:30)
- (出席者) 委員 : 伊谷、幸島、森阪、依田  
 事務局 : 森川、三坂、升本、後藤、下村、岡崎、三島、番匠  
 オブザーバー : 中島
- ⑤ 第4回海獣部会 (2010年12月20日(月) 13:00-14:00)
- (出席者) 委員 : 伊谷、亀崎、幸島、森阪  
 事務局 : 三坂、升本、下村、三島、番匠  
 オブザーバー : 照岡
- ⑥ 第3回魚類(淡水)部会 (2010年11月25日(木) 13:00-14:30)
- (出席者) 委員 : 幸島、竹門、中井、保賀、益田  
 事務局 : 三坂、升本、後藤、下村、岡崎、三島、番匠
- ⑦ 第6回専門家委員会 (2011年1月19日(水) 16:30-18:00)
- (出席者) 委員 : 伊谷、亀崎、幸島、竹門、中井、保賀、益田、森阪、依田  
 事務局 : 森川、三坂、升本、下村、後藤、三島、関、番匠  
 オブザーバー : 中島、宇高、照岡、的山

⑧ 第7回専門家委員会 (2011年2月15日(火) 16:30-18:30)

(出席者) 委員 : 伊谷、亀崎、幸島、竹門、中井、保賀、益田、森阪、依田  
事務局 : 森川、三坂、升本、下村、岡崎、後藤、三島、関、番匠  
オブザーバー : 中島、照岡、的山

第3回「京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会」

- 【日時】：2010年11月11日（木）午後3時00分～午後6時00分  
【場所】：京都市下京区四条烏丸東入長刀鉾町「四条烏丸F T スクエア 2F 会議室」  
【出席者】：末尾に一覧記載

【議題】

1. 各部会報告

◆ 第1回 海水魚部会 2010年10月27日（水）実施報告

- ・展示へのヒントとして日本海側と太平洋側との違いを出してはどうか。
- ・日本海側の魚種は、混合した群れを形成しない。
- ・代表的な魚としてブリ・メバルの仲間等がいる。
- ・南から北までの魚が、水深によって水温ごとに分かれている。
- ・深海は無いが「北の魚」であるビクニンなどがある。
- ・夏場は水温（上層部）が高い。
- ・普段、食卓にあがるような「美味しそうな魚」が多い。
- ・干満の差が小さく、いわゆる「タイドプール」が少ない。
- ・チャガラ、キヌバリなどが見た目も美しく良い展示になる。
- ・藻場が多く残るため、タツノオトシゴやヨウジウオの仲間が多く、カラーバリエーションに富む（茶、黒、白、黄、赤など）。特にヨウジウオは緑色の個体がいる。
- ・ヒトデの仲間も豊富で、大型になる種（ヤツデヒトデ）がいる。
- ・ウニはヒラタブンブクが多い。
- ・最近、ガンガゼが入ってきている。
- ・クラゲは周年見られ、ミズクラゲが多い。
- ・その他にエビクラゲ、アマクサクラゲ、タコクラゲ、カミクラゲが見られる。

◆ 第2回 海獣部会 2010年10月22日（金）実施報告

（イルカについて）

- ・イルカプールは大きく、深くが基本。現段階でのプール案では動物福祉の観点からまだ不十分な点がある。オリックス不動産・建築施工業者・研究者の実務レベルでのもっと突っ込んだ議論と折衝が必要である。
- ・建物の竣工をもって完成と考えずに、イルカに関する展示方法や研究を今後継続して行っていく。将来的な研究や水質などで胸を張ることができるものにする。

（ペンギンとアザラシについて）

- ・ペンギン水槽のサイズ等については現状をベースに詳細部分について継続検討とする。
- ・全体的な面積が限られているため、アザラシとオットセイを混合飼育するよりは、1種類（オットセイ）にする方がよい。
- ・アザラシならば、長いチューブを外周に走らせ、遊泳距離を伸ばしたほうがよい。
- ・オットセイならば、飼育面積を広くするほうがよい。

◆ 第2回 淡水魚部会 2010年11月2日（火）実施報告

- ・展示スペースの制約や魚種の充実を図るため、源流から中流域までの展示をする。魚種はアブラハヤやイワナ、アマゴ、オイカワやアユなど。
- ・希少種としてアユモドキなどを展示するのであれば、館内外に具体的な保全のためのバックヤード設備も充実させてほしい。
- ・水盤に関しては、単に見た目の水盤ではなく生き物の生息する場所にしたほうがよい。これ

がこの水族館の本来の趣旨に合うものではないか。

- ・この水盤に寄り付く生物を定期的に観察しようという市民グループ等の動きが起これば、正に環境博物館といえるのではないか。
- ・水生植物の繁茂や外来種の侵入に対する管理については、ボランティアが作業をする体制を作ることは可能である。

## 2. 委員会の答申および公開方法と時期について

- ・中間報告は必要。今までの備忘録を精査して発表する。

(オリックス不動産より)

- ・次回の委員会までには、公表する草案を準備し、委員会で審議する。

## 3. 今後の進め方と日程について

- ・現在はハードについての議論が中心となっているが、今後は展示方法などソフト面についても議論する。

### ◇出席者一覧

<委員 (50音順、敬称略、◎委員長)>

氏名	所属団体、役職等
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター教授 (センター長)
亀崎 直樹	神戸市立須磨海浜水族園園長 NPO 法人日本ウミガメ協議会会長
◎幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター教授
竹門 康弘	京都大学防災研究所水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域准教授
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 研究部生態系研究領域 総務部企画調整課 主任学芸員
保賀 昭雄	研究調査用特殊機器 HOGA 代表
森阪 匡通	東京大学大気海洋研究所特任研究員
森本 幸裕	京都大学大学院地球環境学堂・地球親和技術学廊教授 (元京都水族館 (仮称) 整備構想検討委員会委員長)
依田 憲	名古屋大学大学院環境学研究科専任准教授

<オブザーバー (50音順、敬称略)>

氏名	所属団体、役職等
宇高 史明	京都市環境政策局環境企画部環境管理課長
中島 英明	京都市環建設局水と緑環境部緑政課担当課長
伴 泰夫	京都市動物園総務課長
的山 泰久	京都市教育委員会事務局指導部学校指導課担当課長

<事務局>

氏名	所属団体、役職等
森川 悦明	オリックス不動産運営事業本部長
三坂 伸也	オリックス不動産運営事業本部水族館事業部長
升本 忠宏	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長
下村 実	オリックス不動産京都水族館開業準備室飼育部門マネージャー

後藤 美和	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長代理
番匠 宏明	オリックス不動産京都水族館開業準備室主任



## 添付発表資料③

### 第4回「京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会」

- 【日時】： 2010年11月25日（木） 午後0時30分～午後1時00分  
 【場所】： 京都市下京区四条烏丸東入長刀鉾町「オリックス㈱京都支店大会議室」  
 【出席者】： 末尾に一覧記載

#### 【議題】

1. 公表資料についての審議
  - ・中間報告資料（2010年12月27日 公表済み）の公表にむけたスケジュールの確認。
2. 今後の進め方と日程について
  - ・オリックス不動産が1週間以内に中間報告資料をまとめる。その後、各委員がその内容を確認する。

#### ◇出席者一覧

<委員（50音順、敬称略、◎委員長）>

氏名	所属団体、役職等
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター教授（センター長）
◎幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター教授
竹門 康弘	京都大学防災研究所水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域准教授
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 研究部生態系研究領域 総務部企画調整課 主任学芸員
保賀 昭雄	研究調査用特殊機器 HOGA 代表
益田 玲爾	京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所 准教授
森阪 匡通	東京大学大気海洋研究所特任研究員
依田 憲	名古屋大学大学院環境学研究科専任准教授

<オブザーバー（50音順、敬称略）>

氏名	所属団体、役職等
二木 久雄	京都市環建設局水と緑環境部担当部長
中島 英明	京都市環建設局水と緑環境部緑政課担当課長

<事務局>

氏名	所属団体、役職等
森川 悦明	オリックス不動産運営事業本部長
三坂 伸也	オリックス不動産運営事業本部水族館事業部長
升本 忠宏	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長
下村 実	オリックス不動産京都水族館開業準備室飼育部門マネージャー
岡崎 哲也	オリックス不動産京都水族館開業準備室飼育担当リーダー
後藤 美和	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長代理
番匠 宏明	オリックス不動産京都水族館開業準備室主任

第5回「京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会」

- 【日時】： 2010年12月20日（月） 午後2時00分～午後4時30分  
【場所】： 京都市下京区四条烏丸東入長刀鉾町「オリックス㈱京都支店大会議室」  
【出席者】： 末尾に一覧記載

【議題】

1. 公表資料についての継続審議

- ・中間報告資料（2010年12月27日 公表済み）として下記の内容を確認する。

- ① 専門家委員会および部会からの提言とその対応状況（経過報告）
- ② 第1回「京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会」
- ③ 第2回「京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会」

2. 各部会報告

◆第3回 海獣部会 2010年11月25日（木）実施報告

（イルカについて）

- ・委員会設立当初より提言を続けているように、イルカプールの形状や大きさはとにかく広く深くするために引き続き努力をするように。
- ・動物福祉の立場から、イルカにとって本当に過ごし易い環境を究明するように。
- ・イルカの管理や飼育という人間の都合ではなく、プールの形状はイルカの事を考えて広く。
- ・イルカの飼育にあたっては環境エンリッチメントやその方針について発信するように。

◆第3回 淡水魚部会 2010年11月25日（木）実施報告

（淡水魚について）

- ・外周の水盤の一部をビオトープとして、人為的な関与を控えながら見守っていくのがよい。
- ・多くの生物を受け入れるビオトープとし、増加した昆虫などの種類の調査結果を発信するのもおもしろい。
- ・スペース的な制約も考慮し、混在展示を明示したうえで、例えば鴨川と由良川の生き物を一緒に展示するのもおもしろい。例えば、アマゴとヤマメやサクラマスとサツキマスなど。
- ・淡水魚の展示では、水と命の連環についての情報発信をしたほうがよい。
- ・例えば、海と川を往来する生き物の1つであるモクズガニなどの展示を通して海と川のつながりに触れるのがよい。
- ・単なる館内での展示や、その展示を通じた情報発信だけではなく（各種手続きのうえで）、実際の川などに生息する生き物の繁殖をアシストし、また自然にかえすといった活動をしたほうがよい。
- ・希少種の1つであるアユモドキなどは、館内での展示に関わる保全だけではなく、生息地での野生個体群の保全も一緒に考えるべきである。

3. その他、委員会での議論

- ・繁殖や研究の充実のために、館外の施設も考えるとよい。
- ・希少種の展示については、事前に関連する自治体や専門家の意見を充分に取り入れ、施設等を含めた準備をすべきである。
- ・展示水槽ごとに、研究者や専門家が参画できるようにしてはどうか。
- ・これからは、展示方法などのソフトに関する内容の議論をすすめていく。

4. 今後の進め方と日程について

- ・公開資料の準備については継続検討。
- ・次回の専門家委員会日程はオリックス不動産にて調整。

◇出席者一覧

<委員（50音順、敬称略、◎委員長）>

氏名	所属団体、役職等
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター教授（センター長）
亀崎 直樹	神戸市立須磨海浜水族園園長 NPO 法人日本ウミガメ協議会会長
◎幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター教授
竹門 康弘	京都大学防災研究所水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域准教授
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 研究部生態系研究領域 総務部企画調整課 主任学芸員
保賀 昭雄	研究調査用特殊機器 HOGA 代表
益田 玲爾	京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所 准教授
森阪 匡通	京都大学野生動物研究センター特定助教

<オブザーバー（50音順、敬称略）>

氏名	所属団体、役職等
伴 泰夫	京都市動物園総務課長
的山 泰久	京都市教育委員会事務局指導部学校指導課担当課長
若松 融	京都市建設局水と緑環境部緑政課 担当課長補佐

<事務局>

氏名	所属団体、役職等
三坂 伸也	オリックス不動産運営事業本部水族館事業部長
升本 忠宏	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長
下村 実	オリックス不動産京都水族館開業準備室飼育部門マネージャー
岡崎 哲也	オリックス不動産京都水族館開業準備室飼育担当リーダー
三島 省吾	オリックス不動産京都水族館開業準備室主任
番匠 宏明	オリックス不動産京都水族館開業準備室主任

## 添付発表資料⑤

### 第6回「京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会」

- 【日 時】 : 2011年1月19日（水） 午後4時30分～午後6時30分  
 【場 所】 : 京都市下京区四条烏丸東入長刀鉾町「オリックス㈱京都支店大会議室」  
 【出席者】 : 末尾に一覧記載

#### 【議題】

1. 第2回目の公表資料についての審議
  - ・2010年12月27日に公表された資料に続く第2回目の公表資料の内容とスケジュールの確認。
  - ・展示内容を説明する際は「水の世界を旅する」というキーワードを伝えるのがよい。
2. その他、委員会での議論
  - ・これからは展示方法などのソフト面についても議論していくように。
3. 今後の進め方と日程について
  - ・オリックス不動産が2011年1月中に専門家委員会での議論の内容を反映させた公表資料をまとめる。その後、各委員がその内容を確認する。

#### 【出席者一覧】

<委員（50音順、敬称略、◎委員長）>

氏名	所属団体、役職等
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター教授（センター長）
亀崎 直樹	神戸市立須磨海浜水族園園長 NPO 法人日本ウミガメ協議会会長
◎幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター教授
竹門 康弘	京都大学防災研究所水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域准教授
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 研究部生態系研究領域 総務部企画調整課 主任学芸員
保賀 昭雄	研究調査用特殊機器 HOGA 代表
益田 玲爾	京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所 准教授
森阪 匡通	京都大学野生動物研究センター特定助教
依田 憲	名古屋大学大学院環境学研究科専任准教授

<オブザーバー（50音順、敬称略）>

氏名	所属団体、役職等
中島 英明	京都市建設局水と緑環境部緑政課担当課長
宇高 史明	京都市環境政策局環境企画部環境管理課長
照岡 正樹	京都市環境政策局環境企画部環境管理課環境評価係長
的山 泰久	京都市教育委員会事務局指導部学校指導課担当課長

<事務局>

氏名	所属団体、役職等
森川 悦明	オリックス不動産運営事業本部長
三坂 伸也	オリックス不動産運営事業本部水族館事業部長
升本 忠宏	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長
下村 実	オリックス不動産京都水族館開業準備室飼育部門マネージャー

後藤 美和	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長代理
三島 省吾	オリックス不動産京都水族館開業準備室主任
関 慎太郎	オリックス不動産京都水族館開業準備室
番匠 宏明	オリックス不動産京都水族館開業準備室主任

## 添付発表資料⑥

### 第7回「京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会」

- 【日 時】 : 2011年2月15日（火） 午後4時30分～午後6時30分  
 【場 所】 : 京都市下京区四条烏丸東入長刀鉾町「オリックス(株)京都支店大会議室」  
 【出席者】 : 末尾に一覧記載

#### 【議題】

1. 第2回目の公表資料についての審議
  - ・2010年12月27日に公表された資料に続く第2回目の公表資料の内容とスケジュールの確認。
2. その他、委員会での議論
  - ・展示のコンセプトや意図を明確にする為にも、調達に時間を要する希少種については、その調達手続きの段階から、委員会で状況を把握し議論していくことが望ましい。
3. 今後の進め方と日程について
  - ・オリックス不動産が1週間以内に専門家委員会での議論の内容を反映させた公表資料をまとめる。その後、各委員がその内容を確認する。

#### 【出席者一覧】

<委員（50音順、敬称略、◎委員長）>

氏名	所属団体、役職等
伊谷 原一	京都大学野生動物研究センター教授（センター長）
亀崎 直樹	神戸市立須磨海浜水族園園長 NPO 法人日本ウミガメ協議会会長
◎幸島 司郎	京都大学野生動物研究センター教授
竹門 康弘	京都大学防災研究所水資源環境研究センター社会・生態環境研究領域准教授
中井 克樹	滋賀県立琵琶湖博物館 研究部生態系研究領域 総務部企画調整課 主任学芸員
保賀 昭雄	研究調査用特殊機器 HOGA 代表
益田 玲爾	京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所 准教授
森阪 匡通	京都大学野生動物研究センター特定助教
依田 憲	名古屋大学大学院環境学研究科専任准教授

<オブザーバー（50音順、敬称略）>

氏名	所属団体、役職等
中島 英明	京都市建設局水と緑環境部緑政課担当課長
照岡 正樹	京都市環境政策局環境企画部環境管理課環境評価係長
的山 泰久	京都市教育委員会事務局指導部学校指導課担当課長

<事務局>

氏名	所属団体、役職等
森川 悦明	オリックス不動産運営事業本部長
三坂 伸也	オリックス不動産運営事業本部水族館事業部長
升本 忠宏	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長
下村 実	オリックス不動産京都水族館開業準備室飼育部門マネージャー
岡崎 哲也	オリックス不動産京都水族館開業準備室飼育担当リーダー
後藤 美和	オリックス不動産京都水族館開業準備室課長代理

三島 省吾	オリックス不動産京都水族館開業準備室主任
関 慎太郎	オリックス不動産京都水族館開業準備室
番匠 宏明	オリックス不動産京都水族館開業準備室主任

# (仮称)京都水族館で出会える いきものたち

オリックス不動産株式会社  
運営事業本部 水族館事業部



オリックス不動産株式会社では、  
日本を代表する各分野の専門家にご協力いただき、  
**2010年9月29日**、「京都水族館(仮称)の展示活動等に関する  
専門家委員会」を設立いたしました。  
以来、(仮称)京都水族館の展示内容のあり方について  
16回の会議を重ね、  
専門家委員の皆さまから  
たくさんのアドバイス、ご意見をいただきました。  
その結果、京都の風土を活かした展示や、  
淡水魚の展示にも力を入れることとなりました。

ここに、(仮称)京都水族館※の展示内容を  
とりまとめましたので、ご紹介いたします。

※以降のページでは京都水族館と表記します。

<過去16回の会議実施日>

- |   |                 |               |
|---|-----------------|---------------|
| ① | 第1回専門家委員会       | (2010年9月29日)  |
| ② | 第1回魚類(淡水)部会 準備会 | (2010年10月6日)  |
| ③ | 第1回海獣部会         | (2010年10月7日)  |
| ④ | 第2回専門家委員会       | (2010年10月13日) |
| ⑤ | 第2回海獣部会         | (2010年10月22日) |
| ⑥ | 第1回魚類(海水)部会     | (2010年10月27日) |
| ⑦ | 第2回魚類(淡水)部会     | (2010年11月2日)  |
| ⑧ | 第2回魚類(海水)部会     | (2010年11月17日) |
| ⑨ | 第3回専門家委員会       | (2010年11月11日) |
| ⑩ | 第4回専門家委員会       | (2010年11月25日) |
| ⑪ | 第3回海獣部会         | (2010年11月25日) |
| ⑫ | 第3回魚類(淡水)部会     | (2010年11月25日) |
| ⑬ | 第5回専門家委員会       | (2010年12月20日) |
| ⑭ | 第4回海獣部会         | (2010年12月20日) |
| ⑮ | 第6回専門家委員会       | (2011年1月19日)  |
| ⑯ | 第7回専門家委員会       | (2011年2月15日)  |

## 施設概要

京都水族館では、「水のつながり」が多様ないきものを育む姿を展示にして皆様にご紹介します。



## 清流の主

しずくの一滴、一滴が川のはじまりです。  
しずくが集まり、それは川になります。  
川は多くのいきものたちの生命をはぐくみます。

清流の主。  
それはきれいな水を好む特別天然記念物の  
オオサンショウウオです。  
息を吸うために、のそっと現われる姿や、  
小魚を狙って驚くようなスピードでハンターとなる瞬間  
が見られるかもしれません。

京都水族館では、生態に謎の多いオオサンショウウオ  
が繁殖できる環境を整え、謎の解明に  
取り組んでまいります。

＜出会えるいきものたち＞  
オオサンショウウオ、アマゴ、サワガニ、カワ  
ムツ、ウグイなど

### Point



京都水族館では、淡水魚が成長する川の環境を可能な限り忠実に再現しました。  
特に、繁殖をふまえたオオサンショウウオの展示コーナーは日本最大級です。  
単なる展示にとどまらず、種の保全のための研究と、その情報発信に努めて  
まいります。



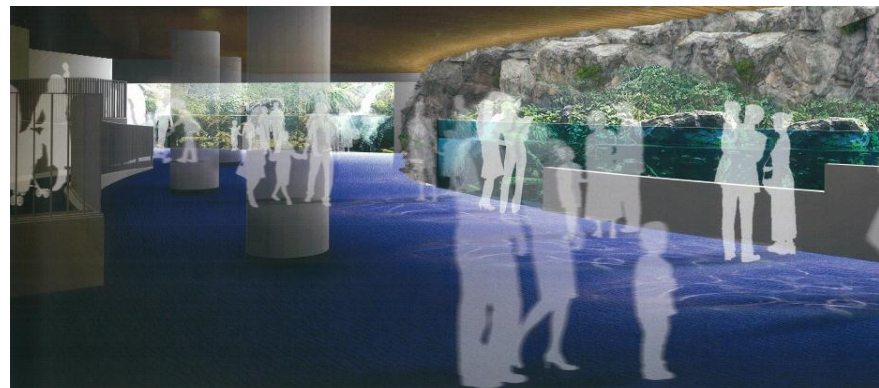
## 山と海を結ぶ川

川は、さまざまにその表情を変ええながら、山から海に向かって流れていきます。勢いよく流れて落ちる水によって変化する水の流れを作り出します。

いきものたちは、それぞれに住みやすい場所を見つけてなわばりを作ります。季節によっては、いきものたちが川や滝までも上る姿が見られるでしょう。

川の上流から下流、そして海の入り口まで、どんないきものが隠れているか、ぜひ探してみてください。

＜出会えるいきものたち＞  
ヤマメ、イワナ、オイカワ、ウグイ、コイ、シロザケなど



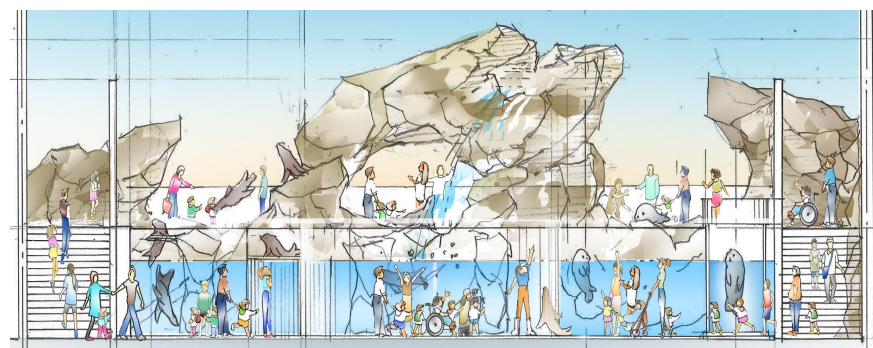
## 海辺のかいじゅう(海獣)

昔むかし、日本海にもたくさんのかいじゅうが住んでいました。

海辺の岩場では、かいじゅうたちがごろごろ、丘でのんびり、好き好きにくつろいでいます。目を転じれば、見事なアクロバットを披露する水中のかいじゅうも見られます。

手を伸ばせば触れられそうな近さに、いろいろな姿のかいじゅうを見ることができます。かいじゅうのにおい、息遣い、そして毛並みまで、じっくり観察してください。

＜出会えるいきものたち＞  
ミナミアメリカオットセイ、ゴマフアザラシ



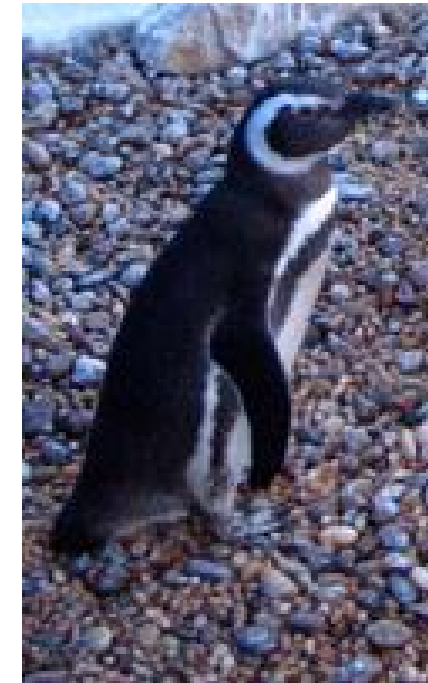
## 水の中を飛ぶ鳥たち

この主役は、水の中をすいすいと飛ぶように泳ぐ、白と黒のタキシードを着た鳥たちです。

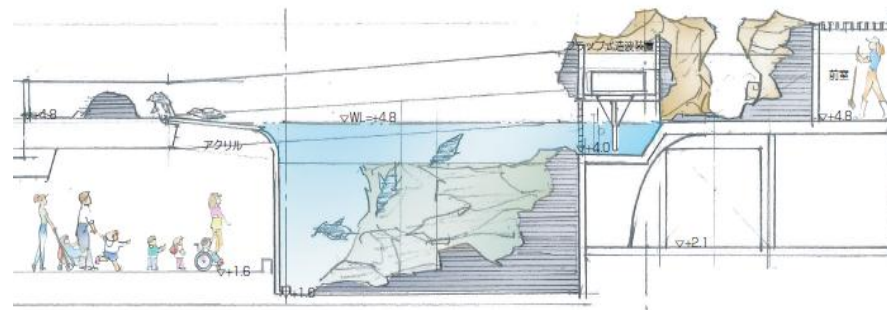
元気に水に飛び込む者、  
いっしょうけんめい丘に上がろうとする者、  
よちよちと丘を歩く者。

起伏に富んだ陸では、子育てをする様子も見られます。

京都水族館では、ペンギンの生育環境に配慮するとともに、人工孵化、繁殖率の増加に努めます。



＜出会えるいきものたち＞  
マゼランペンギン



## 大海原の龍宮城(日本近海)

ここには、日本の海がまるごとあります。  
大陸棚や洞窟も、磯や砂場だってあります。

潮の流れにのってやってくる、  
たくさんの種類の魚たちに出会えます。  
群れをなす小さい魚、ゆうゆうと泳ぐ大きな魚、  
色とりどりの魚、そして磯に住む  
かわいいいきものたちも見られます。

この大海原は、さまざまな角度から海の中を  
のぞくことができます。  
場所によって、見られるいきものたちの  
顔ぶれが変わります。  
日本の海のいきもの多様性をお伝えします。

＜出会えるいきものたち＞  
シロワニ、マダラトビエイ、クエ、ブリ、  
クマザサハナムロ、アオウミガメ、ホシエイ  
など

### Point



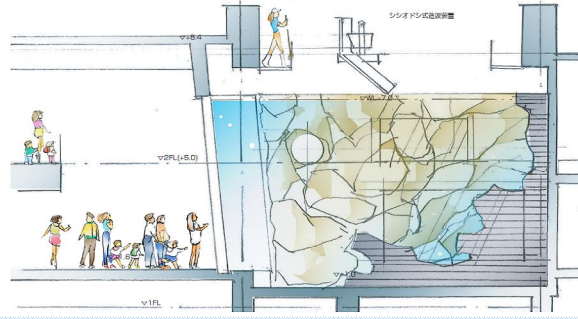
京都水族館は、海外ではすでに多くの水族館が採用している人工海水を利用します。これからも、いきもの種類ごとに適した配合を研究し、いきものたちが暮らしやすい環境を整えていきます。



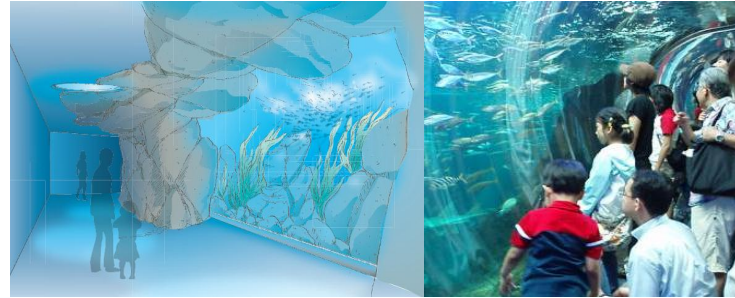
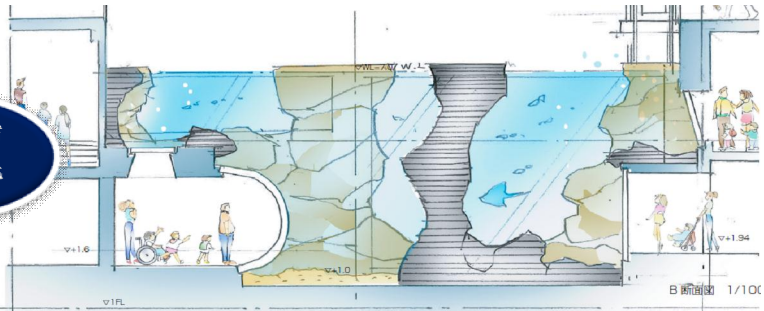


# 大水槽は3つのフロアにわたる大海原

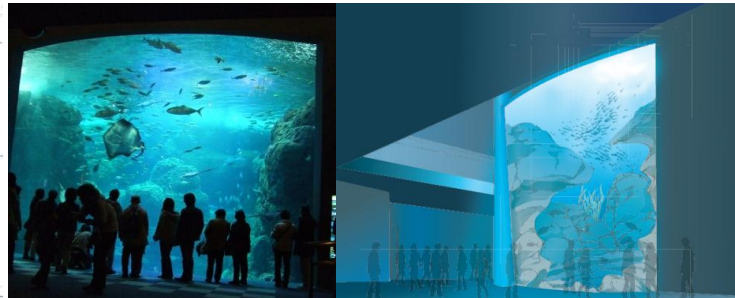
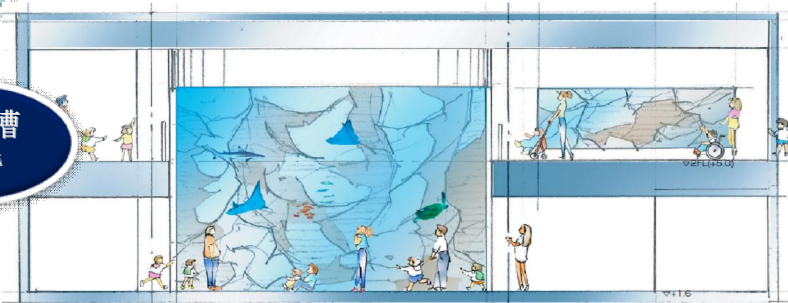
大水槽  
2階



大水槽  
中2階



大水槽  
1階



## 海の宝石箱 (サンゴ礁)

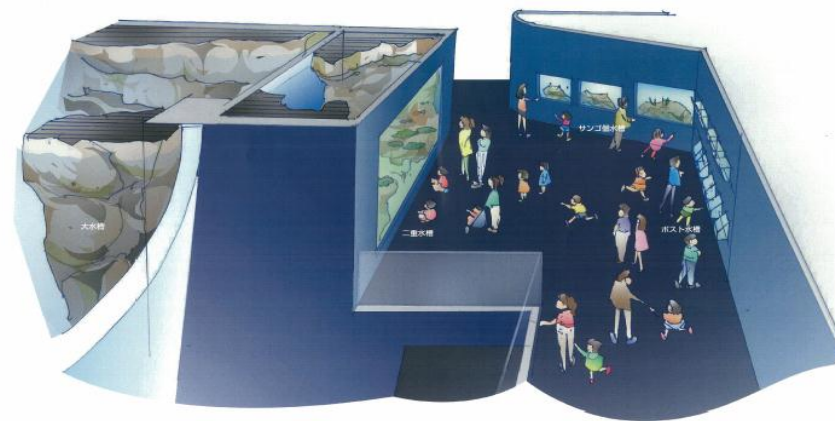
まるで宝石箱をひっくり返したような、まぶしく美しい光景が目の前に広がります。

そこは、色あざやかなサンゴ礁の世界です。そのサンゴ礁に、宝石のような光をはなつ魚たちが、さらに彩りをそえています。

複雑な色と形をしたサンゴたち、その間をちょこちょこ泳ぎまわるさまざまな魚のほか、サンゴの影にじっと隠れて目を光らせる、ちょっと怖い顔をしたウツボも見ものです。

多くのいきものが集まるサンゴ礁は、生物多様性の観点からも、とても大切な場所です。

**<出会えるいきものたち>**  
カクレクマノミ、ネジリンボウ、  
ハタタテハゼ、タテジマキンチャクダイ、  
ニセゴイシウツボなど



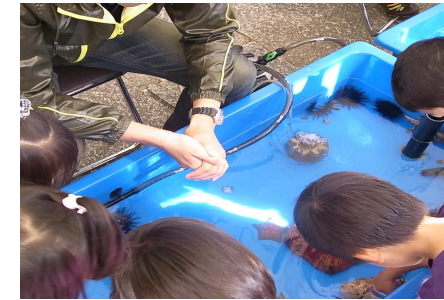
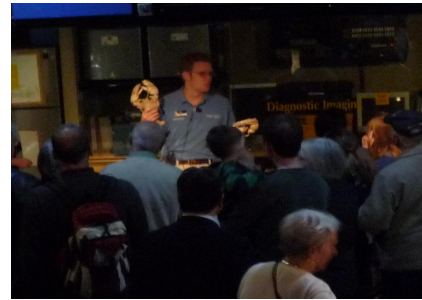
## 磯場の教室

トゲトゲのウニ、ザラザラしたネコザメの肌、ヒトデ  
やナマコの意外な固さ・・・。  
触ってみたこと、ありますか？

京都水族館では、磯のいきものたちを  
直接触り、その体のつくりや生態を  
学ぶことができます。  
いきものたちの専門家である飼育員が、  
ていねいに接し方や生態をご説明します。

箱メガネを使ったり、しゃがんで横から  
のぞいたり、じっくり観察してください。  
新しい発見があるはずです。

＜出会えるいきものたち＞  
メジナ、ネコザメ、イトマキヒトデ、  
ムラサキウニ、イソクズガニなど



## 海のむし(蟲)たち

昔むかし、日本では獣や鳥や魚以外の小動物を「蟲」と呼んでいました。  
蟲はみんな、個性的で不思議な顔をしています。

ふわふわとゆったり漂うクラゲ、  
ぐにゃぐにゃの脚を器用に使ってご飯を食べるタコ、  
がちがちな甲羅をもったエビやカニなど、海の中の  
さまざまな環境に適応した生態を持つ蟲たちがお迎えます。

ここでは、水槽の裏側を特別に公開します。  
飼育員がクラゲを繁殖させている様子なども  
見られます。



＜出会えるいきものたち＞  
ハナイカ、ミズダコ、ミズクラゲ、ゴシキエビ、  
オウムガイ、ミズヒキガニなど

Point



京都水族館では、展示のみならず、飼育員がどのように  
いきものを育てているかを展示側から見られるようにしました。  
また、「バックヤードツアー」など展示飼育員たちによる  
いきものの解説も行ってまいります。



## 京都の海のさかな

京都は、日本海にも面していて、  
たくさんの生き物をはぐくんでいます。

日本海といえば冷たい海のイメージが  
ありますが、京都の海は、暖かい対馬海流のお  
かげで南の魚たちもいます。  
「冷たい海」と「暖かい海」の両面を  
あわせもつ、とても豊かな海なのです。

ここには、ふだん食卓で目にする  
「おいしい」魚がたくさんいます。  
京都の食文化に深く根ざした  
ハモやアカアマダイ(グジ)もいます。  
どんな姿で泳いでいるのか、ぜひ観察して  
ください。

**<出会えるいきものたち>**  
アカアマダイ(グジ)、イシダイ、ハモ、ヒラメ、  
タツノオトシゴなど



## 大洋の人気者

大きく広がる空間の中心に、  
水中をすごいスピードで泳ぎ、  
水面からジャンプする人気者がいます。  
好奇心旺盛で、頭がよくて、人なつこい  
いきものといえば、そう、イルカです。

イルカのなみ外れた身体能力や自然な行動を  
発揮させる展示を計画していきます。

京都水族館ではイルカにストレスを与えないよう、最大  
限配慮していきます。

＜出会えるいきものたち＞  
バンドウイルカ

### Point



イルカが快適に生活できるよう、プールの上に水流を設け  
水質の良化に努めたり、各プールの水路を広げて回遊性を  
向上させたりと、さまざまな工夫をこらしています。  
また、イルカの生態を解明するべく、水中マイク等の機器を設置  
しています。イルカの生態研究のほか、健康管理にも役立てて  
まいります。



## 学び伝える京都の自然

京都には、非常に貴重ないきものが数多く生息していることをご存知ですか？

今、京都では出会いにくくなっている「希少生物」と呼ばれるいきものたちの現状をご紹介します。  
これらのいきものたちを後世に伝えていくため、京都水族館ではいきものたちの保護、繁殖に努めます。

また、学習コーナーとして京都の環境を守る活動の情報発信や、水の豊かな都がはぐくんだ文化のご紹介を行ってまいります。

**<出会えるいきものたち>**  
オヤニラミ、ホトケドジョウ、カワバタモロコ、イチモンジタナゴ、ダルマガエル、カスミサンショウウオ、タヌキモなど

### Point



「いのちの森」をはじめ、地域の自然豊かな場所をめぐり、京都の自然を幅広く学ぶ「自然観察会」などの企画を実施していきます。



## 里山のいきものたち

日本人の心のふるさと里山には、  
たくさんのいきものが人々の暮らしと共に  
生きています。

ナマズやフナは、卵を産むために水路を伝って田  
んぼにやってきます。  
カエルやトンボは、田んぼを住処にしながら、稲に  
つく害虫を食べてくれます。

里山の風景である田んぼや用水路、そこで  
見られるさまざまな植物を再現して、  
いきものと私たちとのつながりを  
伝えてまいります。

### <出会えるいきものたち>

メダカ、ドジョウ、モツゴ、トノサマガエル、ア  
カハライモリなど

#### Point



梅小路公園の「いのちの森」には、チョウやトンボ、カワセミ  
など、いろいろないきものがやってきます。水族館に再現され  
た里山にも、「いのちの森」のいきものたちが遊びにくるかも  
しれません。





(仮称)京都水族館では、いきものたちと  
京都が育んできた環境との関係を  
伝え、考え、守っていくために、  
展示に留まらず、  
館外活動にも力を注いでまいります。  
京都ならではの水族館として、  
たくさんの皆さまの  
参加をお待ちしております。